

福居



福井商工会議所青年部会報

YEG思い出のあの日あの時

連載「市民のオアシス 足羽川ものがたり」
「エンジョイ・アートライフ4」
活動報告

第19回「市民の広場」フォーラム報告

Vol.76

発行日/平成8年1月15日発行
発行所/福井商工会議所青年部
福井市西木田2-8-1
TEL:0776-36-8111
FAX:0776-36-8588

発行者/松村 顕
編集者/吉野 弘美



真木康至氏作

三村 貞二

私は、平成元年度入会以来7年が経ちましたが、この間青年部一番の思い出というと、やはり地活委員長を務めさせていただいたことです。ハートランドというイベント系の事業を動かすということは、これまでの経験の中では無縁でしたし、何よりも大掛かりな企画の中に身を置くことは、とても大きなブレイクスルーでした。又街づくりと観点から、内外の人達と大いに触れあえた事は、何にもまして財産になった事は言うまでもありません。

田谷 仁一

二百字では書ききれない思い出ばかりです。月一回の例会・役員会・無限大に広がる委員会活動のすべが、私にさまざまなシチュエーションを与え、そのすべてからいろんな事を学びました。人と出会い、深い交流をし、情報を得、さらに人に伝える。自分のネットワークがどんどん広がって行きます。

利害関係なしで、自分のすべてを出しきる事がありますか？、納得がいくまで人とかかわった事がありますか？まっています。

野 阪 泰 樹

近畿ブロック福井大会の思い出がやはり一番印象に残っています。「環日本海時代を迎えて」や「激論バスツアー」を担当し、他の単会を巻き込んだの検討会や連日深夜に及んでの資料作成など今振り返ると良く出来たもんだなあと思います。大へんでしたが汗の結晶である提言書が完成した時の感動は私にとって一生忘れることが出来ないものです。仲間と同じ感動を共有することが出来たことは大へん意義深いものです。又我々青年部はそういう体験を享受出来る場所だと思います。

田 中 義 乃

ある先輩より「人は、出会うべき時期に、出会うべき人と出会う」と教えられたがまさに青年部に入会して、色々な人と出会い、またハートランドなどを通して、人の違った面（もうひとつの顔）を垣間見ることができた。実は私にも（もうひとつの顔）があるが、人に見せられるような物ではないので、見せない。これからは、今年のハートランド同様、台風接近、波高し、心の中の疾風怒濤の時代である。

前 田 裕 之

私の青年部いちばんの思い出は、入会初年度のハートランドです。この年はハートランドと市民の広場の同時開催で、まさに青年部の“お祭り”でした。準備段階から当日にかけての様子は、高校の学園祭のようであり、久しぶりに『全員参加のイベント』の持つ、興奮を味わうことができました。毎年ハートランドでは同じような気分になりますが、やはり最初の時の事がいまも思い出されます。

YEG

思い出のあの日あの時

松 木 延 倫

いちばんの思い出は、なんといっても書けないことが多すぎる事です。その書けないことで思い悩ませていただいたおかげで、人間関係に関するいろんな勉強をすることができました。春の新人オリエンテーションで京都につれていっていただいたとき、ほんとうに勉強してよかったなあと思ったものです。具体的事業では、3年連続でかかわった駅東♡が、今年、地元主導でみごとに花開いていたことでした。

永 井 弘 明

15年間には感激も多かったが、ここでは近畿ブロック福井大会である。当時全国商工会議所青年部連合会の副会長であった私にとって全国から来福された役員から特段の評価を受け、それまでの会員の苦勞がむくわれ言葉に表せない感動だった。特に「これだけ会員が動いているのにリーダーが見えない。福井YEGは一体どんな組織なんだ」と会長に言わせる程、一人一人が自分のための大会になっていたようだ。

松 村 顕

何といっても近プロだ！
青年部の大イベントであり、自分自身の大イベントであったように思う。あの事業を通して得たものは、青年部にいたから得られたのだろうと思う。私の人生のターニングポイントだった。この事業を期に、自分が変わり周囲が変わった。友に感謝、共に感動！
こんな体験をできる青年部、自分の思いが強いほど、素晴らしい体験ができる青年部、そして、なにより素晴らしい友のいる青年部。



よりよい環境づくりに……

福井環境事業株式会社

取締役社長 安 達 肇

本 社／福井市角折町第6号1番地 TEL (0776) 36 - 4463
FAX (0776) 36 - 4453
坂井営業所／坂井郡春江町一中庄 TEL (0776) 51 - 0332

各種 豊 工 事 一 式

品質管理 認定工場 **牧 野 豊 商 店**

〒910 福井市照手2丁目2-6
TEL 0776-23-2959
FAX 0776-26-1848

Y E G 活動報告

10 月 度 例 会

例会委員会副委員長 山岸 寛 士

10月度例会は、青年部恒例の“男の料理”教室でした。

今回も天谷調理師専門学校校長の天谷祥子氏の指導のもと J R 福井駅正面の天谷調理師専門学校3F実習室で10月25日に、25名の参加で行われました。

今回のテーマは「男でも簡単にできるおせち料理」ということでおせち料理として代表的な黒豆・カマボコ等を使って七品程製作いたしました。

今年こそは、家庭の方で成果を出したいということで和気相々の中にも熱のこもった実習が行われました。

毎年指導していただいている天谷校長に感謝するとともに、皆様の料理が一品でも食卓に出ることを願って報告いたします。



11 月 度 例 会

例会委員会副委員長 牧 野 利 幸

11月度例会は、11月22日(木)国際ホールに於いて今ちょっと気になる個人輸入について、ジェトロ福井経済国際化センターのアシスタント川端由佳さんを講師に迎えて「個人輸入のすすめ」と題して行われました。

カタログの取り寄せから商品選び商品発注から支払いに至るまでの流れを実例をもとに、事細かにそのおもしろさや注意すべき点などのアドバイスを聞きました。

今まで、話には聞いていたが、少し遠い存在であった個人輸入が F A X やクレジットカードなどを利用する事で、すぐ身近に体験できるものと知りました。

皆さん、会議所ビル6階のジェトロ福井へ行けば、あの美人アシスタントの川端さんが明るくアドバイスしてくれますので、是非個人輸入にトライしてみてください。



第15回全国大会 (大宮大会) 参加報告文

副会長 三村 貞 二

11月16・17日、青年部全国大会 (大宮大会) に参加しました。

県連事業の一環で、県下各単会の参加者が挙って、小松から航空便にて上京しました。

いつも思う事ですが、冬場の向うは、空気が冷たく乾燥しているものの、晴天続きの日々は、何といても羨ましい限りでした。

さて大会とは言いますと、式典はさておき、基調・特別講演等に『地球環境を考える』統一テーマが設定されていました。

環境問題を語る上で、机上の議論だけでなく、先ず身近な自然に触れ遊びを通して、「自然との調和の何たるかを体感する事の重要性」とか、「E M 有用微生物の利用が、環境破壊を根絶してしまうという非現実とも思える話」まで、多様な分野の学びが得られて満足感の極みでした。

末筆ながら、多様な分野の学びには続きがあって、とても一言では言い尽せませんので、ご希望あらば、出張報告致したいと存じます。



クリスマスパーティー

例会委員会副委員長 小 林 久 則

さる12月10日(日)会員・家族参加の毎年恒例クリスマス大会が賑やかに開かれました。

ケーキ作りには今年は紙すきをドッキング。子供・大人問わず、水しぶきをとばしながらの大奮戦。

そして食事又ビールを飲みながら企画はつきへと進み、111人全参加によるゲームの始まり。賑やかなやら、ドタバタやらで無事優勝チームが決定！

その後はこれまた恒例大ビンゴ大会！

リーチまではなっても、なかなかビンゴまでは遠い道のりだった人も……。ザンネンでした。

そうしているうちにきよこの夜の合唱が始まり、そして曲が染むとうしろの扉よりいよいよサンタが……。と、どうしたことか今年はお共が。そうです、言わずと知れたちょっと運動不足ぎみのトナカイ。なかなかみんなからかわいがられていたようでした。そして子供たちの手には大きなプレゼント袋が……。

また来年も楽しいクリスマスパーティーでみなさんお会いいたしましょう。もちろんサンタとトナカイもやって来るはず。



第19回「市民の広場」フォーラム報告

憩いのある街を求めて

テーマ「県都福井市の顔としての駅周辺の活性化 第2回」



去る11月11日、商工会議所ビル会議室A Bにて第19回市民の広場フォーラムが開催されました。今年は「憩いのある街を求めて」をテーマに「まちづくり」について約80名の参加者があり、熱心に討論を行いました。

今年の市民の広場委員会活動は、去年のテーマ「県都福井市の顔としての駅周辺の活性化」を継続するという形でスタートしました。まず、近隣の県庁所在地(金沢市・富山市)の見学会を実施し、福井市と対比した結果、福井には憩いのある空間が少ないのではないか、という意見が多く出、これを今年のフォーラムのテーマと決定しました。

そしてフォーラムの準備を進めていく中で「憩い」の中でも、特に「水と緑」に着目していくことになり、同様の考えを持つまちづくり団体との交流をすすめて、いくつかの資料を得ることができました。また「水と緑」をテーマとして、長浜市と大垣市を見学し、非常にうまくまちづくりを実現している姿を目にすることができました。

- フォーラムの構成は、
- ・第1部 卓話「水のある暮らし」
 - ・第2部 市民の広場活動報告
パネルディスカッション
 - ・第3部 テーブル討議
総括

の3部構成としました。

松村会長によるあいさつに続いて、まず第1部では、福井工大の江川教授より都市計画とは離れて、『水』というものが、いかに我々の暮らしにとって必要であるか、という点について、分かりやすい事例を交えての卓話がありました。

そして第2部にて、主に見学会の写真を中心とした市民の広場活動報告を行い、引き続きまちづくり団体の代表によるパネルディスカッションを行いました。パネラーには、

- ・旭をデザインする会
- ・コアシティ協議会
- ・アーバンデザイン研究会
- ・福井青年会議所

の各代表に出席をしていただき、各グループの活動の概要を紹介してもらいました。特に「旭をデザインする会」と「アーバンデザイン研究会」からは水をとり入れたまちづくり案が紹介され、関心を呼んだと思います。

第3部のテーブル討議では、1、2部の内容を踏まえて、自由に意見交換を行いました。いかにして、こういうまちづくりを実現するか? という点にも、色々な意見が出されました。そして最後に、野阪副会長の総括があり、この中で「まちづくりの実現のため、いくつかの団体が力を結集しよう」という行動目標が示されました。

準備を含め、フォーラムで感じられたことは、まちづくりに真剣に取り組んでいる団体、人々が数多くいる、ということであり、総括で示された通り、これらの団体が力を合わせていくことが大切である、ということです。簡単なことではありませんが、今後、Y E G 活動の1つの柱として位置づけたいと思います。

最後に、フォーラムに協力いただいた全ての方々に、この紙面を借りてお礼を申し上げます。「御協力、本当にありがとうございました。」



前田 裕 之

基礎工事ならおまかせ

株式会社 **かどしま**

〒910 福井市月見4丁目4-15
TEL (0776) 35-6063
FAX (0776) 36-1378
TEL (0776) 36-1378(自宅)

地球を観る。測る。デザインする。

建設コンサルタント 登録 (7)-5568
補償コンサルタント 登録 (6)-1943
測量業 登録 (7)-4229

株式会社 **日東調査設計**

代表取締役 佐竹 清 嗣

〒910 福井市飯塚町30-18
TEL 0776-36-8849
FAX 0776-36-8838

足羽川の改修計画と杉田定一

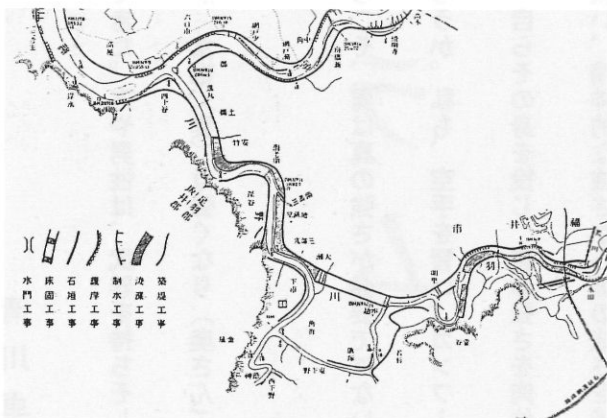
笠島清治

江戸時代までは、大きな河川だけでなく、小さな支流でも、物資やひとびとの舟運に利用されていました。だから、船頭さんが櫓を漕ぐ様子や渡しでの別れを描いた絵本や歌謡曲が多いのでしょう。

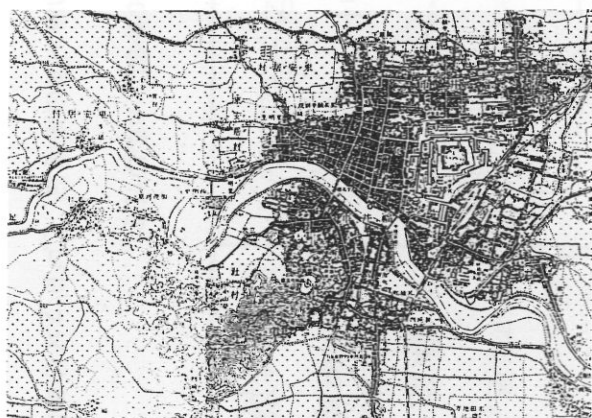
しかし、こうした舟運に河川が利用されている時代は、どうしても護岸堤防は低くなっていたようです。年貢などを運搬するのに、堤防が高いと困るからです。

足羽川の場合も同様でした。しかし、ひとたび、台風やこれにともなう洪水が発生すると、河川は至る所で氾濫がおこりました。まして、足羽川の合流する日野川、これをまた合流する九頭竜川へと、洪水の被害は増大し、時には福井県の予算の何十倍にも達しました。

ところが、1894（明治27）年ころより、現在のJR北陸線が開通するようになり、貨車運搬が増した分だけ、河川利用の舟運も衰えて、越前の三大河川の改修工事が具体化するようになりました。1図はこうした改修計画を表にしたもので、2図は、江戸時代からの足羽川の水路をあらわしたものです。



改修計画図



明治末の足羽川下流の地図

足羽川の水路が現在と異なっているのに気づきますが、1図ではこの迂回した箇所をなおそうとしているのがわかります。

この河川大改修計画を推進したのは、ちょうどそのころ中央で活躍していた杉田定一だったのです。定一は青年期から農民代表として、地租改正の再調査や自由民権運動に尽力し、当時は本県最初の衆議院議長として、政界で重きをなしていたのです。

定一は川西地区の旧・鶉村波寄出身の大庄屋の子でしたが、一生を民衆の心を信条にして努力した大政治家でした。いまではほとんど忘れられています。足羽山には顕彰碑が建ち、地元には杉田鶉山（じゅんざん）翁遺徳顕彰会（会長は市長）があって、その偉業を語り伝えています。先生は福井県の財政難を知っていましたから、地元負担をできるだけ縮小するようにも尽くしました。

1948（昭和23）年の震災までの堤防のほとんどは、こうして完成したのです。

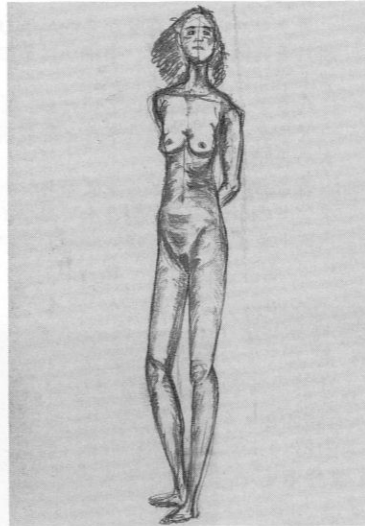
エンジン・アートライフ

に鉛筆で描いた。一回のポーズが20分間というところで描きはじめたが、私も18年ぶりのモデルにおけるクロッキーで、なかなか形がとれずむずかしく感じた。学生時代、芸大をめざして、クロッキーもかなり経験し、何百枚も描いていたのだけれども、やはりむづかしい。会員のメンバーもほとんどが初めて経験する人ばかりで、皆、真剣なまなざしで、モデルとスケッチブックにむかっていた。ポーズとポーズの間に10分間の休憩があり、その時お互いに批評したり感想を述べたりしていた。「絵を描くことはやはり楽しい」とか「むづかしい」とか、しかしながら、皆おおむね描く事、見る事におけるプロセスを楽しんでいたようだ。

モデルさんには、立っているポーズ、いすに座ったポーズなど4ポーズしていただいた。ポーズの形は、松崎鐘美先生につけていただいた。



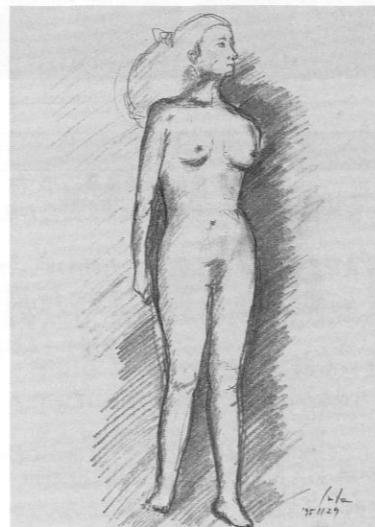
先日11月30日、我々研修委員会による芸術講座として、ヌードモデルによるクロッキー教室を開いた。ヌードという言葉がきいたのか、多数のご参加ありがとうございました。クロッキーというのは短時間における素描で、今回はスケッチブック



前田公孝氏作

松崎先生は独立展や個展なども多数開かれており、ポーズの前に簡単にクロッキーの描き方を講習していただいた。1枚目を描き終った時点と2枚、3枚目では先生のきびしい(?)指導もあり、ぐんぐん上達したように見えた。繊細に描く人やおおらかに描く人、なかなか各人各様、個性がでていた。その中でも「うまい」というか芸術家だなあと思われる人もいた。たぶん芸術の道を選んでもその道で、充分成功できるんじゃないかとも思われた。

思うに、才能というものは、自分が気がつかない人が、ほんとにたくさんいるのじゃないかと思う。小さい時に物事をホンの少し学んで（学校で経験することなど、人生からくらべると微々たるものだと思う）その中で得意、不得意を感じてしまい、本当はすばらしい才能を持ちながら、自分の心の中の制限を長年続けてゆくうちに（制限をするということはその事をやろうとしない事だから才能に気づく事もない）。人生が終ってしま



出田吏市氏作

うのです。この芸術講座を開催して、隠れていた才能（隠していた才能と言うべきか）を持っている人がいっぱい、つまりは好気心を持つ事、何事にもチャレンジしてみる事が大切じゃないかと強く感じました。この講座で未来のレオナルド・ダ・ビンチが出てくる事を期待いたします。



小林久則氏作

隠れていった才能

研修委員長 真木 康至

おれの話を書いてくれ

清川卓二

遙か昔から、女性は、貴金属を身にまとい、化粧し美の追求を行ってきた。方や男性は、武器を持ちそして格闘技を身につけ強さの追求を行ってきた。しかし、現在に至っては、どうだ？ 女性（妻）は強くなり（奥さんごめん）男性はMr.レディーになりきれいになっていく。

そんな時代に誰がした？ それは、我々であろう。こんな時代だからこそ、男は真の強さが必要ではないか。強さの象徴である、プロレス団体が最近では30もある事もこの現れではなからうか。私も、空手を習い、カンフーを真似し、プロレスを友達としていた学生だった。かつての格闘技を愛した時は、自らその身を投じ、真の強さを肉体で実現しようとしていた。現在も強さのあこがれから、ビジネスというリングで戦い、精神的な強さから真の強さを追求しているのではなからうか？ そして、ほっと戦いを忘れ、力を抜いて参加できるYEGを私は、「プロレスの移動バス」
（敵も味方もなく同じ目的を持った人々がくつろぎながら目的地へ向かう手段）と呼びたい。



会員情報

●社名変更●

総務委員会 砂河正光氏
旧社名 株式会社三和店装
新社名 株式会社
サンテン・コーポレーション

●ご結婚おめでとう●

例会委員会 宇佐美嘉一氏
佳絵さん

●弔事●

例会委員会 江守康利氏
ご尊父 江守利一さん
平成7年12月7日ご逝去

新人会員紹介



あおがきゆきひと
青垣幸仁
S42・1・24生
勤務先…松本延倫事務所
住所…福井市西谷町13-13
TEL…0767-3512917